

みなさまの大阪ガス

第201期 報告書

2018年4月1日~2019年3月31日



株主の皆様へ



株主の皆様には、平素から、当社グループの事業運営に格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、長期経営ビジョン2030・中期経営計画2020に沿って、社会、地域、お客さまの発展に貢献し、時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニーとなることを目指しております。

このビジョン・計画の実現に向け、事業環境の変化を梃子に、しなやかに進化・成長し続ける力を発揮し、積極的かつ着実に事業活動を進めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

代表取締役社長 **本 庄 武 宏**

目 次

事業報告

I 企業集団の現況に関する事項	2
II 役員に関する事項	13
III 株式に関する事項	18
IV 会計監査人の状況	19
V 業務の適正を確保するための体制に関する事項	20

連結計算書類

連結貸借対照表	24
連結損益計算書	25

計算書類

貸借対照表	26
損益計算書	27

監査報告

連結計算書類に係る 会計監査人の会計監査報告	28
会計監査人の会計監査報告	29
監査役会の監査報告	30

(ご参考)

株式伝言板	33
-------	----

■連結計算書類の連結株主資本等変動計算書および連結注記表ならびに計算書類の株主資本等変動計算書および個別注記表につきましては、法令および定款の定めに基づき、当社ウェブサイト (<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/stock/inform/index.html>) に掲載しております。

なお、会計監査人および監査役が監査をした連結計算書類および計算書類は、本報告書に記載の各書類のほか、上記の当社ウェブサイトに掲載の各書類であります。

I | 企業集団の現況に関する事項

① 事業の経過および成果

当期におけるわが国経済は、自然災害が相次ぎ、海外情勢を巡る不透明感が漂う中でも、企業の設備投資等の内需に支えられ、堅調に推移しました。一方、電力・ガス小売全面自由化等により、市場の競争は激しさを増しています。

こうした経営環境のもと、当社グループは、「暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループ」となることを目指し、積極的に事業活動を展開してまいりました。

当期における連結売上高は、ガス事業で原料費調整制度に基づき販売単価が高めに推移したことや、電力事業で電力販売量が増加したことなどにより、前期に比べて5.8%増の1兆3,718億円となりました。(グラフ1)

連結経常利益は、ガス事業での高気水温によるガス販売量の減少や原料価格の変動が都市ガスの販売価格に反映されるまでの時間差による影響(※)等により、前期に比べて18.1%減の631億円となりました。(グラフ2)

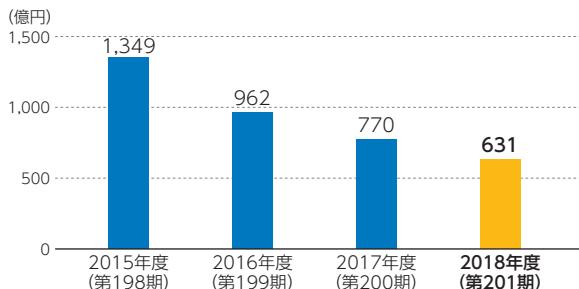
親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に比べて10.9%減の336億円となりました。(グラフ3)

(※) 原料価格の変動が原料費調整制度に基づく販売単価に反映されるまでには、一定の時間差があるため、一時的な増減益要因となります。当期は一時的な減益要因、前期は一時的な増益要因となっております。

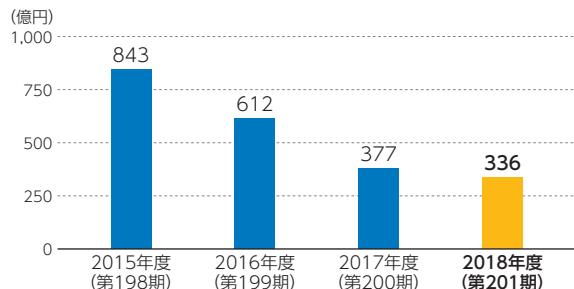
グラフ 1 連結売上高の推移



グラフ 2 連結経常利益の推移



グラフ 3 親会社株主に帰属する当期純利益の推移



以下、当社グループの事業部門別（セグメント別）の概況をご報告いたします。

1 国内エネルギー・ガス

売上高は、前期に比べて3.7%増の1兆126億円となりました。

家庭用の都市ガス販売量は、高気水温により給湯・暖房需要が減少したことや、他社へのスイッチング等により、前期に比べて12.4%減の19億 m^3 となりました。

業務用等の都市ガス販売量は、競合影響や特定のお客さま設備の稼働が減少したことなどにより、前期に比べて5.9%減の60億3千5百万 m^3 となりました。

これらの結果、都市ガス販売量は、前期に比べて7.5%減の79億3千5百万 m^3 となりました。

都市ガス供給件数は、本年3月末時点で557万9千件となりました。

家庭用のガス機器・サービスにつきましては、給湯、暖房、調理等の機器・設備に加え、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム」等の商品の開発および販売拡大に努めるとともに、ガス機器・水まわりの修理等の住まいのお困りごとに対応する「住ミカタ・サービス」等の各種サービスの提供に努めました。

「エネファーム」につきましては、本年3月、累計販売台数が10万台を突破いたしました。

業務用のガス機器・サービスにつきましては、コージェネレーションシステム、冷暖房システム、厨房機器、ボイラ、工業炉、バーナ等の商品の開発および販売拡大に努めるとともに、エンジニアリング力を活用し、お客さまのニーズに応じた高付加価値のソリューションの提供に努めました。



ガスコンロのPR



来場者が100万人を突破した
食と住まいの情報発信拠点
「hu+gMUSEUM（ハグミュージアム）」



本年1月、当社と他のガス小売事業者2社およびガス機器メーカー4社が共同開発した、ガスヒートポンプエアコンと電気ヒートポンプエアコンを遠隔制御により最適に運転するハイブリッド個別空調システム「スマートマルチ」が、「平成30年度省エネ大賞（製品・ビジネスモデル部門）」の審査委員会特別賞を受賞いたしました。

2018年12月、当社は、びわ湖ブルーエナジー株式会社の株式74.8%を取得いたしました。同社は、本年4月より、大津市からガス小売事業を引き継いで事業を開始しており、ガス・ガス機器・電気等に関する総合的なエネルギーサービスの提供を進めております。

都市ガス料金につきましては、本年3月、経営効率化の成果等を織り込み、一般ガス供給約款料金（ガス小売全面自由化後も経過措置としてガス事業法の規制を受ける小売料金）を平均0.50%引き下げました。

また、本年3月、託送供給約款料金を平均0.54%引き下げました。

安定供給・保安の確保につきましては、天然ガスの調達先の多様化、製造・供給設備の保全と計画的な改修、安全機能を備えたガス機器の普及促進等に継続的に取り組みました。

2018年6月に発生した大阪府北部を震源とする地震による被害の復旧活動につきましては、全国のガス事業者から応援をいただき、無事故で供給を再開いたしました。復旧にあたっては、「復旧見える化システム」により、当社ウェブサイトにて復旧進捗状況を表示するなど、お客さまへの情報提供に努めました。

また、「全社総合防災訓練」を実施するなど、引き続き地震対策・津波対策に取り組みました。



ハイブリッド個別空調システム
「スマートマルチ」



びわ湖ブルーエナジー株式会社のロゴ



復旧作業（ガス管修繕）の様子

2 国内エネルギー・電力

売上高は、前期に比べて16.8%増の1,843億円となりました。

電力販売量は、前期に比べて6.4%増の116億5千3百万kWhとなりました。

低圧電気需給契約に基づく供給件数は、本年3月末時点で94万5千件となりました。

2018年8月、お客さまのライフスタイルやニーズに合わせた電気料金メニュー「スタイルプラン」の第一弾として、Amazonの会員プログラム「Amazonプライム」を利用できる「スタイルプランP」(※1)を設定いたしました。また、本年3月、電気料金に応じてdポイント(※2)がたまる「スタイルプランd」等、ラインアップを拡充し、受付を開始いたしました。

(※1) 同プランの契約期間中、別途会費をお支払いいただくことなく、「Amazonプライム」をご利用いただけます。

(※2) 株式会社NTTドコモが提供するポイントサービスのポイント。

2018年8月、当社と中部電力株式会社の合併会社（出資比率50%）である株式会社CDエナジーダイレクトは、首都圏において、電気、ガスの販売等を開始いたしました。エネルギービジネスの拡大を目指し、株式会社東急パワーサプライ等の様々な企業との連携を強化しております。

本年3月、兵庫県姫路市において、広畑バイオマス発電株式会社（出資比率90%）が運営するバイオマス発電所（発電容量約7.5kW、2023年8月営業運転開始予定）の建設を決定するなど、再生可能エネルギー電源の拡大に努めました。

3 海外エネルギー

売上高は、前期に比べて79.4%増の404億円となりました。

2018年6月、米国テキサス州において稼働中のシェールガス生産開発事業に関する権益約30%を取得して開発事業に参画し、現在、LNG換算で約30万トン/年（当社持分相当）のガスを順調に生産しております。



「スタイルプランP」のPR



「スタイルプランd」のPR

あなた電気
あなたガス

株式会社CDエナジーダイレクトが提供する
電気・ガスのブランドロゴ



シェールガスの採掘作業（米国テキサス州）

2018年8月、インドネシアにおいて、PT OSAKA GAS INDONESIAを設立し、同年10月、インドネシア石油・ガス公社PT Pertaminaグループのガス販売会社であるPT Pertagas Niagaと、天然ガス共同マーケティング事業を開始いたしました。シンガポール、タイに続く東南アジアでのエネルギー関連事業となり、天然ガスの効率的な利用や重油等からの燃料転換を促進しております。

2018年12月、米国コネチカット州において稼働中のトワンティック天然ガス火力発電事業（発電容量78.5万kW）の事業会社の持分49.5%を取得し、発電事業に参画するなど、米国IPP（卸電力）事業の拡大に努めました。

4 ライフ&ビジネス ソリューション

売上高は、前期に比べて4.7%増の2,109億円となりました。

都市開発事業を展開する大阪ガス都市開発株式会社は、当期中に「アーバネックス南品川」をはじめとする8物件の賃貸マンションを取得し、資産の拡充に努めました。また、新分譲マンションブランド「SCENES（シーズ）」の1号物件である「シーズ京都西大路五条パークホームズ」等、2物件の分譲マンションが竣工いたしました。

情報ソリューション事業を展開する株式会社オーグス総研は、企業情報システムのコンサルティング・設計・開発・運用や、データセンター・クラウドサービス等、総合的なITサービスの提供に努めました。

材料ソリューション事業を展開する大阪ガスケミカル株式会社は、石炭化学技術等を基盤として、ファイン材料、炭素材製品、保存剤等、付加価値の高い材料等の開発および販売拡大に努めました。また、新国立競技場整備事業の建設工事における木材保護塗料として、「キシラデコール® フォレストージ®」を供給しております。



トワンティック発電所（米国コネチカット州）



アーバネックス南品川（東京都）



木材保護塗料「キシラデコール」

事業部門別 売上高・セグメント利益

	国内エネルギー・ガス	国内エネルギー・電力	海外エネルギー	ライフ&ビジネスソリューション
売上高 (億円)	10,126	1,843	404	2,109
前期比 (%)	+3.7	+16.8	+79.4	+4.7
構成比 (%)	69.9	12.7	2.8	14.6
セグメント利益 (億円)	358	87	59	177
前期比 (%)	△16.7	△57.9	—(※)	△3.1
構成比 (%)	52.5	12.8	8.8	26.0

(※) 前期は、53億円のセグメント損失を計上しております。

(注) 事業部門別の売上高・セグメント利益には、事業部門間の内部取引に係る金額を含んでおります。なお、セグメント利益には、持分法による投資損益を含んでおります。

2018年4月1日付の組織再編に伴い、再編の対象となる連結子会社1社を、当期より「ライフ&ビジネス ソリューション」セグメントから「国内エネルギー・ガス」セグメントに移管しております。なお、本事業報告における前期比は、この移管を反映して算定した数値に基づき記載しております。

② 主要な事業内容 (2019年3月31日現在)

事業部門	主要な事業内容
国内エネルギー・ガス	● 都市ガスの製造・供給および販売 ● ガス機器販売 ● ガス配管工事 ● LNG販売 ● LPG販売 ● 産業ガス販売
国内エネルギー・電力	● 発電および電気の販売
海外エネルギー	● 天然ガスおよび石油等に関する開発・投資 ● エネルギー供給 ● LNG輸送タンカーの賃貸
ライフ&ビジネスソリューション	● 不動産の開発および賃貸 ● 情報処理サービス ● ファイン材料および炭素材製品の販売

③ 設備投資の状況

設備投資額につきましては、1,072億円となりました。

当期中に当社のガス本支管は202km増加し、当期末の延長は50,989kmとなりました。

また、ガス製造・供給設備における安定供給と保安の確保を目的とした工事や、当社子会社による天然ガス開発・生産事業に関する設備工事、発電所の建設工事等を実施いたしました。

④ 資金調達の状況

長期借入金につきましては、当期中に1,293億円を借り入れましたが、社債(※)につきましては、当期中の発行はありませんでした。

なお、長期借入金につきましては、当期中に377億円を返済いたしました。また、社債(※)につきましては、当期中に300億円を償還いたしました。

(※) 短期社債を含んでおりません。

⑤ 対処すべき課題

1. 経営方針

当社グループは、「暮らしとビジネスの“さらなる進化”のお役に立つ企業グループ」として、天然ガス・電力・LPGなどのエネルギーとその周辺サービスや、都市開発・材料・情報等のエネルギー以外の様々な商品・サービスを通じて、「お客さま価値」「社会価値」「株主さま価値」「従業員価値」の創造を目指します。そして、電力・ガス小売全面自由化等の政策動向に的確に対応するとともに、積極的な成長投資や継続的な経営効率化を進めてまいります。また、持続的な成長を実現することが最大の経営課題であると認識し、2017年に長期経営ビジョン2030・中期経営計画2020「Going Forward Beyond Borders」を策定し、2018年に新グループブランド「Daigasグループ」を導入いたしました。

当社グループは、本ビジョン・計画に沿って、社会、地域、お客さまの発展に貢献し、時代を超えて選ばれ続ける革新的なエネルギー&サービスカンパニーとなることを目指し、積極的に事業活動を進めてまいります。

2. 重点課題

長期経営ビジョン2030・中期経営計画2020の実現に向け、以下のとおり、課題に取り組んでまいります。

(1) 国内・海外エネルギー事業

① 安定的、経済的な原燃料調達、上流（開発・生産）・液化事業の推進

多数の生産者から分散して調達することにより、天然ガス等の原燃料の安定確保に努めるとともに、契約価格指標の多様化等により、市場競争力を高める原燃料調達を目指します。

また、天然ガスの安定調達と収益獲得のため、現在取り組んでいる液化事業・ガス田等のプロジェクトの遂行や、新規権益の取得等を進め、上流事業を着実に推進してまいります。

② 競争力のある電源の確保

国内外での新規電源（天然ガス火力発電・再生可能エネルギー発電・石炭火力発電等）の開発、卸電力市場からの調達等を通じて、競争力のある電源ポートフォリオを構築するとともに、海外IPP（卸電力）事業の強化を図ります。

③安定供給と保安の確保

ガス製造・供給設備、発電設備等の維持・増強・改修、地震・津波対策等に継続的に取り組んでまいります。また、万一のガス漏れ等の緊急時への対応を引き続き行い、お客さま先の保安の確保に努めてまいります。

④国内外におけるマーケットビジネスの拡大

燃料電池等のガスコージェネレーションシステムやガス冷暖房の普及等を通じた天然ガスの利用拡大に加えて、電力・LPG販売の拡大に取り組んでまいります。また、「住ミカタ・サービス」等のライフサポートサービス、建物・設備の管理やメンテナンス、水処理、デジタル技術を活用した省エネルギーの見える化など、エネルギー周辺サービスを拡充するとともに、お客さまのライフスタイルに応じたエネルギー料金メニューも総合的に提供することで、お客さまの快適な生活の実現やビジネスの発展に貢献してまいります。さらに、各地のエネルギー事業者を含めた様々なパートナーとの連携等を通じ、国内で幅広くマーケットビジネスを拡大してまいります。

海外でも、ガス・電力・エネルギーサービス事業の運営や新規案件の開発等に着実に取り組んでまいります。

⑤エネルギーインフラ開発・エンジニアリング事業の拡大

国内外において、LNG基地等の新規エネルギーインフラ開発を拡大いたします。また、LNGの導入等を検討しているお客さまに対し、これまでの事業展開で培ったノウハウを活かし、ニーズに応じたソリューションを提案することでエンジニアリング事業を拡大してまいります。

⑥公正で効率的なガス導管事業の推進

託送供給の中立性・透明性の確保や利便性の向上を図りつつ、都市ガス需要の維持・拡大に継続的に取り組んでまいります。

(2) ライフ&ビジネス ソリューション事業

エネルギー事業で培った技術と知見を基盤に、都市開発・材料・情報等の事業において、固有の強みを活かした商品・サービスを提供することで、国内外のお客さまの快適・便利・健康の実現をサポートし、お客さまの豊かな暮らしやビジネスの発展に貢献してまいります。

(3) 経営基盤

①ESG（環境・社会・ガバナンス）に配慮した経営の実践

「DaigasグループCSR憲章」に基づき、当社グループ全体のCSR水準を一層高めることでESGに配慮した経営を実践し、国内外における当社グループのサプライチェーンに関わる皆様とともに、お客さまや社会からのさらなる信頼獲得に努めてまいります。

具体的には、天然ガスへの燃料転換、高効率な設備や再生可能エネルギーの導入等により、お客さま先や自らの事業活動におけるCO2排出削減の取り組みを一層拡大いたします。また、国際規範に則った人権や労働・安全衛生への取り組みや、ダイバーシティ、情報セキュリティ対策等を推進いたします。

②イノベーション・技術開発の推進

IoTやAIなど、最先端のデジタル技術や当社グループ内外のアイデアを活用したサービスの提供による新たな価値創造に取り組んでまいります。

また、燃料電池をはじめとするガス機器・設備のさらなる高効率化とコストダウン、新たな材料や情報処理、温暖化対策等に関する技術開発を推進いたします。

③人材・組織の強化

持続的な成長の実現に向け、人材の多様性を高め、新しい価値を生み出せる人材の育成とチャレンジを促す組織風土の醸成を進めてまいります。また、健康で強靱な当社グループであり続けるために、生産性が高く、創造性豊かな働き方を促進する働き方改革に一層積極的に取り組んでまいります。

3. おわりに

グループの内部統制システムの運用状況の確認および評価を継続的に行い、所要の措置を講じることにより、実効性の高い内部統制を行ってまいります。これらの仕組みのもと、以上の課題に対処するとともに、「Daigasグループ企業理念」を実践し、持続的成長に向けて不断の努力を続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

⑥ 財産および損益の状況

区分	2015年度 第198期	2016年度 第199期	2017年度 第200期	2018年度 第201期 (当期)
売上高 (百万円)	1,322,012	1,183,846	1,296,238	1,371,863
経常利益 (百万円)	134,986	96,276	77,087	63,103
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	84,324	61,271	37,724	33,601
1株当たり当期 純利益 ^(※1) (円)	202.64	147.29	90.71	80.80
総資産 ^(※2) (百万円)	1,829,756	1,886,577	1,897,230	2,029,722
純資産 (百万円)	935,786	991,870	1,028,799	1,035,044

(※1) 2015年度（第198期）から2018年度（第201期）までの「1株当たり当期純利益」は、いずれも2017年10月1日付の株式併合が2015年度（第198期）の期首に行われたと仮定して算定しております。

(※2) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）を第201期から適用しており、第200期についても、当該会計基準を遡って適用し算定しております。

⑦ 重要な子会社の状況 (2019年3月31日現在)

会社名	資本金 (百万円)	持株比率 (%)	主要な事業内容
大阪ガス都市開発株式会社	1,570	100	不動産の開発・賃貸・管理・分譲
株式会社オービス総研	440	100	ソフトウェア開発、 コンピュータによる情報処理サービス
大阪ガスケミカル株式会社	14,231	100	ファイン材料および炭素材製品等の 製造・販売

(注) 1. 当社グループでは、関係会社のうち、各事業分野において中心的役割を担い、当社グループの経営の基本単位として位置付ける関係会社を中核会社としており、中核会社を重要な子会社としております。

2. 上記の重要な子会社3社を含む連結子会社は、150社であります。

⑧ 主要な営業所および工場ならびに従業員の状況 (2019年3月31日現在)

(1) 主要な営業所等の状況

当社	本 社	本社〔大阪府〕		
	事 業 所	大阪事業所〔大阪府〕 東部事業所〔大阪府〕	南部事業所〔大阪府〕 兵庫事業所〔兵庫県〕	北部事業所〔大阪府〕 京滋事業所〔京都府〕
	L N G 基 地	泉北製造所〔大阪府〕	姫路製造所〔兵庫県〕	
	研 究 所	エネルギー技術研究所〔大阪府〕		
子会社	大阪ガス都市開発株式会社〔大阪府〕 大阪ガスケミカル株式会社〔大阪府〕		株式会社オージス総研〔大阪府〕	

(注) 導管事業部(本年4月1日、ネットワークカンパニーに名称変更)は、それぞれの事業所に地域導管部が所在しております。リビング事業部およびエネルギー事業部は、業務別組織で事業活動を展開しております。

(2) 従業員の状況

事業部門	従業員数(名)
国内エネルギー・ガス	10,973
国内エネルギー・電力	395
海外エネルギー	194
ライフ&ビジネスソリューション	8,662
合 計	20,224

(注) 従業員数は、就業人員数であります。

⑨ 主要な借入先 (2019年3月31日現在)

借入先	借入金残高(百万円)
株式会社りそな銀行	68,886
株式会社三菱UFJ銀行	53,108
株式会社国際協力銀行	40,237
株式会社日本政策投資銀行	20,774
株式会社京都銀行	18,705

II | 役員に関する事項

① 取締役および監査役の氏名等 (2019年3月31日現在)

地位	氏名	担当	重要な兼職の状況
代表取締役会長	尾 崎 裕		大阪商工会議所会頭 朝日放送グループホールディングス株式会社取締役 株式会社オージス総研取締役 大阪ガスケミカル株式会社取締役
代表取締役社長 社長執行役員	本 荘 武 宏		大阪府公安委員会委員 大阪ガス都市開発株式会社取締役
代表取締役 副社長執行役員	松 坂 英 孝	担当：地域共創部門 東京支社 地区支配人 統括地区支配人 分掌：リビング事業部 エネルギー事業部 大阪ガス都市開発株式会社	大阪ガス都市開発株式会社取締役
代表取締役 副社長執行役員	藤 原 正 隆	保安統括 技術統括 経営企画本部長 イノベーション本部長 分掌：導管事業部 株式会社オージス総研 大阪ガスケミカル株式会社 秘書部 広報部 人事部 総務部 資材部	株式会社オージス総研取締役 大阪ガスケミカル株式会社取締役
代表取締役 副社長執行役員	宮 川 正	CSR統括 担当：CSR・環境部 コンプライアンス部 監査部 分掌：資源・海外事業部 ガス製造・発電・エンジニアリング事業部	
取締役 常務執行役員	松 井 毅	資源・海外事業部長	
取締役 常務執行役員	田 坂 隆 之	エネルギー事業部長	大阪臨海熱供給株式会社代表取締役社長
取締役 常務執行役員	米 山 久 一	ガス製造・発電・エンジニアリング事業部長	
取締役 常務執行役員	竹 口 文 敏	担当：秘書部 広報部 人事部 総務部 資材部	
取締役 常務執行役員	近 本 茂	導管事業部長	

地位	氏名	担当	重要な兼職の状況
取締役	森下俊三		阪神高速道路株式会社取締役会長 日本放送協会経営委員会委員
取締役	宮原秀夫		大阪大学大学院情報科学研究科招聘教授 一般社団法人ナレッジキャピタル代表理事 西日本旅客鉄道株式会社取締役
取締役	佐々木隆之		西日本旅客鉄道株式会社相談役
監査役(常勤)	川岸隆彦		
監査役(常勤)	入江昭彦		
監査役	木村陽子		公立大学法人奈良県立大学理事
監査役	八田英二		同志社大学経済学部教授 学校法人同志社総長、同理事長 公益財団法人日本学生野球協会会長 公益財団法人日本高等学校野球連盟会長 一般社団法人大学監査協会副会長
監査役	佐々木茂美		一般財団法人日本法律家協会近畿支部理事

(注) 1. 「担当」欄の分掌とは、本部、部門、組織、中核会社または特定職位の者の業務について、経営上の重要度および影響度等を勘案してモニタリング、助言・勧告を行うことであります。

2. 取締役 森下俊三、宮原秀夫、佐々木隆之は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

3. 監査役 木村陽子、八田英二、佐々木茂美は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

4. 当社は、社外取締役および社外監査役(社外役員)全員を、上場している証券取引所の定めに基づき独立役員として届け出ております。

5. 各社外役員の「重要な兼職の状況」欄に記載の法人等と当社との間には、記載すべき関係はありません。

6. 取締役 田坂隆之、米山久一、竹口文敏、近本茂は、2018年6月28日開催の第200回定時株主総会において新たに選任され、同日就任いたしました。

7. 監査役 川岸隆彦は、当社財務部長を経験しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

8. 代表取締役会長 尾崎裕の「重要な兼職の状況」欄に記載の朝日放送グループホールディングス株式会社取締役、および取締役 宮原秀夫の同欄に記載の西日本旅客鉄道株式会社取締役は、社外取締役であります。

9. 当期中の担当および重要な兼職の状況の異動

代表取締役会長 尾崎裕の重要な兼職先である朝日放送グループホールディングス株式会社は、2018年4月1日、組織再編に伴い、朝日放送株式会社から商号を変更いたしました。

代表取締役社長 本荘武宏は、2018年7月10日、大阪府公安委員会委員に就任いたしました。

代表取締役 松坂英孝の担当は、2018年6月28日、一部変更となりました。

(2018年6月28日以前の担当は、「担当」欄の記載に、「東京駐在」を加えたものであります。)

取締役 田坂隆之は、2018年4月2日、大阪臨海熱供給株式会社代表取締役社長に就任いたしました。

取締役 森下俊三は、2018年7月9日、大阪府公安委員会委員長を退任いたしました。

取締役 佐々木隆之は、2018年6月21日、西日本旅客鉄道株式会社の取締役を退任し、同社の相談役となりました。

監査役 八田英二は、本年3月31日、同志社大学経済学部教授を退任いたしました。

(注) 10. 当期末後の取締役の地位および担当ならびに重要な兼職の状況の異動

取締役の地位および担当ならびに重要な兼職の状況は、本年4月1日、以下のとおりとなりました。

地位	氏名	担当	重要な兼職の状況
代表取締役会長	尾 崎 裕		大阪商工会議所会頭 朝日放送グループホールディングス株式会社取締役 株式会社オージス総研取締役 大阪ガスケミカル株式会社取締役
代表取締役社長 社長執行役員	本 荘 武 宏		大阪府公安委員会委員 大阪ガス都市開発株式会社取締役
代表取締役 副社長執行役員	藤 原 正 隆	技術統括 イノベーション本部長 分掌：リビング事業部 エネルギー事業部 大阪ガス都市開発株式会社 株式会社オージス総研 大阪ガスケミカル株式会社	大阪ガス都市開発株式会社取締役 株式会社オージス総研取締役 大阪ガスケミカル株式会社取締役
代表取締役 副社長執行役員	宮 川 正	CSR統括 担当：地域共創部門 CSR・環境部 東京支社 コンプライアンス部 監査部 地区支配人 統括地区支配人 分掌：ガス製造・発電・エンジニアリング事業部	
代表取締役 副社長執行役員	松 井 毅	経営企画本部長 分掌：資源・海外事業部 ネットワークカンパニー(※) 秘書部 広報部 人事部 総務部 資材部	
取締役 常務執行役員	田 坂 隆 之	エネルギー事業部長	大阪臨海熱供給株式会社代表取締役社長
取締役 常務執行役員	米 山 久 一	ガス製造・発電・エンジニアリング事業部長	
取締役 常務執行役員	竹 口 文 敏	担当：秘書部 広報部 人事部 総務部 資材部	
取締役 常務執行役員	近 本 茂	保安統括 ネットワークカンパニー社長(※)	
取締役	松 坂 英 孝		株式会社オージーキャピタル取締役会長
取締役	森 下 俊 三		阪神高速道路株式会社取締役会長 日本放送協会経営委員会委員
取締役	宮 原 秀 夫		大阪大学大学院情報科学研究科招聘教授 一般社団法人ナレッジキャピタル代表理事 西日本旅客鉄道株式会社取締役
取締役	佐々木 隆 之		西日本旅客鉄道株式会社相談役

(※) 本年4月1日、導管事業部をネットワークカンパニーに、導管事業部長をネットワークカンパニー社長に名称変更いたしました。

② 社外役員に関する事項

(1) 主な活動状況

地位	氏名	出席状況および発言状況
取締役	森下俊三	13回開催された取締役会に12回出席しております。企業経営・組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外取締役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
取締役	宮原秀夫	13回開催された取締役会に12回出席しております。組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外取締役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
取締役	佐々木隆之	13回開催された取締役会に13回出席しております。企業経営・組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外取締役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
監査役	木村陽子	13回開催された取締役会に12回出席し、また14回開催された監査役会に13回出席しております。組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外監査役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
監査役	八田英二	13回開催された取締役会に13回出席し、また14回開催された監査役会に14回出席しております。組織運営についての豊富な経験と幅広い識見を活かし、また社外監査役としての独立した立場から、適宜発言がありました。
監査役	佐々木茂美	13回開催された取締役会に13回出席し、また14回開催された監査役会に14回出席しております。法曹実務家としての豊富な経験と専門的知見を活かし、また社外監査役としての独立した立場から、適宜発言がありました。

(2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、会社法第427条第1項および定款の規定により、社外取締役および社外監査役全員との間で、会社法第423条第1項の損害賠償責任について、法令に定める最低責任限度額を限度とする契約を締結しております。

③ 取締役および監査役の報酬等

(1) 取締役および監査役の報酬等の決定に関する方針

各取締役の報酬額は、社外役員が過半数を占める任意の諮問委員会での審議を経た上で、株主総会でご承認いただいた上限額（月額63百万円）の範囲内で、取締役会の決議により、各取締役の地位および担当等を踏まえ、直近3カ年の会社業績（親会社株主に帰属する当期純利益）を反映して決定いたします（※）。

（※）社外取締役については、業務執行から独立した立場であることから、固定報酬としております。

取締役（社外取締役を除く）は、月額報酬から一定額を拠出し、役員持株会を通じて自社株式を購入しております。

各監査役の報酬額は、株主総会でご承認いただいた上限額（月額14百万円）の範囲内で、監査役の協議により、各監査役の地位等を踏まえて決定いたします。

なお、取締役および監査役に対する退職慰労金については、廃止しております。

(2) 取締役および監査役の報酬等の額

区分	報酬等の総額（百万円）		対象となる役員の員数（名）	
	固定報酬	業績連動報酬		
取締役（社外取締役を除く）	506	303	202	14
監査役（社外監査役を除く）	67	67	—	2
社外取締役	32	32	—	3
社外監査役	32	32	—	3

(注) 1. 取締役の報酬等の総額は538百万円、監査役の報酬等の総額は99百万円、社外役員の報酬等の総額は64百万円となっております。

2. 取締役（社外取締役を除く）の報酬等の総額および員数、取締役の報酬等の総額には、2018年6月28日開催の第200回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役4名分を含んでおります。

Ⅲ 株式に関する事項 (2019年3月31日現在)

① 発行株式数と株主数

項目	内容
発行可能株式総数	700,000,000株
発行済株式の総数 ^(※)	416,680,000株
株主数	104,094名

(※) 自己株式867,201株を含んでおります。

② 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	27,591	6.64
日本生命保険相互会社	19,242	4.63
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	18,758	4.51
株式会社三菱UFJ銀行	13,985	3.36
株式会社りそな銀行	10,555	2.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口7)	9,381	2.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	7,609	1.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	6,296	1.51
J P M O R G A N C H A S E B A N K 3 8 5 1 5 1	6,167	1.48
S T A T E S T R E E T B A N K W E S T C L I E N T - T R E A T Y 5 0 5 2 3 4	6,062	1.46

(注) 持株比率の算定にあたっては、発行済株式の総数から自己株式の数を除いております。

IV | 会計監査人の状況

① 会計監査人の名称

有限責任あずさ監査法人

② 会計監査人の報酬等

(1) 当期に係る会計監査人の報酬等の額

区分	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
当 社	89（※）	24
当 社 子 会 社	114	37
合 計	203	62

（※）当社と会計監査人との間の監査契約においては、会社法に基づく監査報酬額と金融商品取引法に基づく監査報酬額とを区分しておらず、かつ、実質的にも区分できないため、金額はこれらの合計額で記載しております。

(2) 会計監査人の報酬等について監査役会が同意をした理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況および報酬見積りの算出根拠等を確認し、審議した結果、会計監査人の報酬等が適切であると判断し、会社法第399条第1項の同意を行っております。

③ 非監査業務の内容

当社は、会計監査人に対して、国際財務報告基準等に関する専門的見地からの助言の提供等を委託し、対価を支払っております。

④ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当するときは、監査役の全員の同意により解任いたします。また、監査役会は、会計監査人の適格性、専門性、独立性等を総合的に評価し、会計監査人がその職務を適切に遂行することが困難と認められる場合には、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

V | 業務の適正を確保するための体制に関する事項

1. 内部統制システムの概要

当社は、取締役会において、当社の取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他当社グループの業務の適正を確保するために必要な体制（内部統制システム）について定めており、その概要は以下のとおりであります。

① 職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- (1) 当社グループの取締役・従業員は、職務の執行の前提となる情報収集・事実調査を十分に行い、的確な事実認識のもと、職責権限に関する規程に基づき、合理的な判断を行う。
- (2) 業務執行取締役は、取締役会における適正な意思決定に資するとともに、監督機能の充実を図るため、独立性を有する社外役員を確保する。また、取締役会の監督機能の充実を図るとともに、効率的な業務執行の体制を確立するため、執行役員制度を採用する。
- (3) 業務執行取締役は、社長および取締役会の判断に資することを目的として経営会議を設け、経営の基本方針および経営に関する重要な事項について審議する。
- (4) 業務執行取締役は、「DaigasグループCSR憲章」を踏まえて、「Daigasグループ企業行動基準」を定め、当社グループの取締役および従業員にこれを周知徹底することにより、当社グループにおける法令・定款に適合した職務の執行の確保はもとより、公正で適切な事業活動（環境保全への貢献、社会貢献活動の推進、反社会的勢力との関係遮断等を含む。）を推進する。
- (5) 業務執行取締役は、内部通報制度である相談・報告制度とCSR委員会の設置により、当社グループにおけるコンプライアンスに係る状況の把握とコンプライアンスの推進に努める。
- (6) 当社グループの取締役・従業員は、当社グループにおけるコンプライアンスに係る問題を発見したときは、事案の重大性・緊急性に応じ、業務執行取締役もしくは上長に相談・報告するか、または相談・報告制度により報告する。業務執行取締役、コンプライアンス部長または上長は、その内容を調査し、所要の改善措置を講じる。

② 職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- (1) 当社グループの業務執行取締役・従業員は、職責権限に関する規程に基づき、判断要素、判断過程等を明記した取締役会議事録、稟議書等を作成する。
- (2) 当社グループの業務執行取締役・従業員は、取締役会議事録、稟議書その他の職務の執行に係る情報を、情報の特性に応じて、適切に保存し、管理する。

③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (1) 業務執行取締役は、製造・供給設備の工事、維持および運用に関する事項について保安規程を定めるとともに、製造供給体制の整備を推進することなどにより、ガス事業における保安の確保と安定供給に万全を期す。

- (2) 当社グループの業務執行取締役・当社の基本組織長（当社の基本的組織単位の長）は、リスク（外的要因による危険、内的要因による危険、外部者との取引等に伴う危険）ごとに、リスク発生の未然防止、または発生した場合の損失の最小化のための対応策を講じ、損失の危険の管理を行う。
- (3) 損失の危険の管理は、各基本組織および各関係会社を基本単位とする。
- (4) 当社グループの経営に特に重要な影響を与える可能性がある緊急非常事態への対応は、災害対策に関する規程および事業継続計画による。

④ 職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- (1) 当社グループの業務執行取締役・当社の基本組織長は、職責権限に関する規程により、当社・当社グループにおける業務分担と意思決定に関する事項を定める。また、組織等の制度内容や職務の遂行に際しての一般的な遵守事項について規程等を定め、これらを周知徹底することにより、円滑な組織運営、業務の品質向上・効率化を図る。
- (2) 当社グループの業務執行取締役・当社の基本組織長は、企業価値の最大化を目的として、当社・当社グループの中期経営計画と単年度計画を定めるとともに、業績管理指標により達成状況をフォローし、計画達成に向けて注力する。

⑤ 業務の適正を確保するためのその他の体制

前記各事項に加えて、業務執行取締役は、次の措置を講じるとともに、適正な運用に努める。

- (1) 当社グループの各事業分野において中心的役割を担う会社（中核会社）または関係会社を管理する基本組織（経営サポート組織）を定め、関係会社の日常的な経営管理を行う。
- (2) 当社グループ全体の法令・定款適合性や効率性等について、当社の監査部長が内部監査を行う。その監査結果を受けて必要がある場合には、速やかに改善措置を講じる。
- (3) 財務報告の信頼性を確保するため、これに係る内部統制の整備、運用および評価を行う。

⑥ 監査役職務を補助すべき使用人に関する事項

- (1) 業務執行取締役は、監査役求めがあれば、従業員を監査役職務の補助に従事させ、監査役補助者が所属する監査役室を設置する。
- (2) 監査役補助者は、監査役職務の補助に専従する。

⑦ 監査役補助者の取締役からの独立性に関する事項

- (1) 業務執行取締役は、全従業員に等しく命ずべき職務を除き、監査役補助者を指揮命令できない。
- (2) 業務執行取締役は、監査役補助者の人事考課、異動等を行う場合、事前に監査役の意見を徴し、これを尊重する。

⑧ 監査役への報告に関する体制

- (1) 取締役は、当社に著しい損害を及ぼす事実を発見したときは、直ちに報告する。

- (2) 当社グループの取締役、従業員または関係会社の監査役は、当社グループの経営に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の結果、相談・報告制度の主な通報状況、その他重要な事項を、遅滞なく報告する。
- (3) 当社グループの取締役・当社の従業員は、監査役から職務の執行に関する事項について報告を求められたときは、遅滞なく報告する。
- (4) 当社グループの業務執行取締役・上長は、前各項に基づき監査役への報告を行った者に対して、当該報告を行ったことを理由とする不利な取扱いを行わない。

⑨ 監査役の監査が実効的に行われることを確保するためのその他の体制

- (1) 監査役は、代表取締役、会計監査人と定期的に意見交換できる。
- (2) 監査役は、経営会議および全社委員会に出席でき、稟議書等の職務の執行に係る重要な情報を適時に調査できる。
- (3) 業務執行取締役は、監査役の職務の執行に必要な費用または債務を会社として負担する。

⑩ 運用状況の確認等

- (1) 業務執行取締役は、内部統制システムの運用状況の確認および評価を定期的に行い、その結果を取締役会に報告する。
- (2) 業務執行取締役は、内部統制システムの評価結果、その他の状況を勘案し、必要に応じ、所要の措置を講じる。

2. 内部統制システムの運用状況の概要

当社は、内部統制システムの運用状況について、各事項の確認項目を設け、関係する組織長等から報告を受けることにより定期的に確認しており、本年4月24日開催の取締役会において、内部統制システムが適切に運用されている旨の報告をしております。

当期における内部統制システムの運用状況の概要は、以下のとおりであります。

① コンプライアンスに関する事項

CSR委員会は、「コンプライアンス部会」「環境部会」「社会貢献部会」「情報セキュリティ部会」「リスク管理部会」を設置し、各分野におけるCSRをより一層推進しております。

「Daigasグループ企業行動基準」およびその解説等を内容とする教材をイントラネットに常時掲示することなどにより、当社グループの取締役および従業員に対し周知し、理解促進と定着を図っております。

サービスショップへのファンヒーター販売において公正取引委員会から警告を受けたことに関しては、引き続きサービスショップとの協議や制度の運用見直し等を実施するとともに、今後とも独占禁止法をはじめとする関係法令の遵守に努めてまいります。

また、内部通報制度である相談・報告制度に関しては、制度のさらなる理解と利用の促進を図るため、ポスターの掲示による周知を行うとともに、イントラネット等を通じてコンプライアンスの考え方や制度に関する解説を実施しております。

② リスク管理に関する事項

基本組織長・関係会社社長は、損失の危険の管理を推進し、定期的にはリスクマネジメントの点検を実施しております。各基本組織および各関係会社においては、リスクマネジメントの自己点検をシステム化した「G-RIMS (Gas Group Risk Management System)」等を活用して、リスクの把握、対応状況の点検とフォロー等を実施しております。また、保安・防災等のグループに共通するリスク管理に関しては、主管組織を明確にし、各基本組織と各関係会社をサポートすることで、グループ全体としてのリスクマネジメントに取り組んでおります。

緊急非常事態に対する備えとして、災害対策に関する規程および事業継続計画を整備しております。大阪府北部を震源とする地震における対応を踏まえ、当期の「全社総合防災訓練」においては、情報共有・意思決定プロセスの手順確認や初動対応等の訓練を実施し、BCP計画書の見直しを行いました。

株式会社オーガス総研が提供する「宅ふぁいる便」サービスにおいて、第三者の不正アクセスによるお客さま情報の漏洩が発生したことに関しては、サイバー攻撃への対策と監視を強化するとともに、当社グループ全体で同様の事象が発生するリスクがないかを点検するなど、より一層の情報管理の強化を進めております。

③ 当社グループにおける経営管理に関する事項

中核会社または経営サポート組織が管理する関係会社を定め、関係会社から重要事項についての報告を受けて経営課題を把握するとともに、G-RIMSの活用や監査の実施等により、日常的な経営管理を行っております。

内部監査部門である監査部は、各組織および各関係会社を対象に計画的な内部監査を実施するとともに、内部監査実施から一定期間経過後のフォローアップ監査を実施しております。

④ 監査役の監査の実効性に関する事項

常勤監査役は、代表取締役会長、代表取締役社長および会計監査人と定期的に意見交換を行っており、社外監査役も適宜参加しております。監査役は、会計監査人との意見交換の機会も活用し、その適格性、専門性、独立性等を評価しております。

常勤監査役は、経営会議、CSR推進会議、投資評価委員会等の重要会議に出席し、稟議書等の重要文書を読覧しております。また、取締役会における内部統制システムの決議において、監査役への報告を要する事項を明確にし、周知を行っております。

監査役の職務の補助に専従する監査役補助者を4名配置しております。

以上

連結計算書類

連結貸借対照表 (2019年3月31日現在)

(単位：百万円)

(単位：百万円)

資産の部	
固 定 資 産	1,497,528
有 形 固 定 資 産	889,392
製 造 設 備	85,086
供 給 設 備	265,421
業 務 設 備	55,176
そ の 他 の 設 備	409,486
建 設 仮 勘 定	74,222
無 形 固 定 資 産	127,633
投 資 そ の 他 の 資 産	480,502
投 資 有 価 証 券	359,737
長 期 貸 付 金	22,862
退 職 給 付 に 係 る 資 産	49,074
そ の 他	49,389
貸 倒 引 当 金	△562
流 動 資 産	532,194
現 金 及 び 預 金	116,289
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	219,206
リ ー ス 債 権 及 び リ ー ス 投 資 資 産	40,445
た な 卸 資 産	112,327
そ の 他	45,616
貸 倒 引 当 金	△1,691
資 産 合 計	2,029,722

負債の部	
固 定 負 債	641,465
社 債	144,989
長 期 借 入 金	367,418
繰 延 税 金 負 債	22,811
ガ ス ホ ル ダ ー 修 繕 引 当 金	1,247
保 安 対 策 引 当 金	11,207
器 具 保 証 引 当 金	12,454
退 職 給 付 に 係 る 負 債	17,228
そ の 他	64,108
流 動 負 債	353,212
1年以内に期限到来の固定負債	60,134
支 払 手 形 及 び 買 掛 金	66,087
短 期 借 入 金	22,751
そ の 他	204,240
負 債 合 計	994,678
純資産の部	
株 主 資 本	932,167
資 本 金	132,166
資 本 剰 余 金	19,222
利 益 剰 余 金	782,523
自 己 株 式	△1,744
そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額	72,172
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	50,617
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△4,007
土 地 再 評 価 差 額 金	△737
為 替 換 算 調 整 勘 定	11,189
退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	15,110
非 支 配 株 主 持 分	30,704
純 資 産 合 計	1,035,044
負 債 純 資 産 合 計	2,029,722

■連結損益計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目			
売	上	高	1,371,863
売	上	原 価	981,086
(売 上 総 利 益)			(390,777)
供給販売費及び一般管理費			322,800
(営 業 利 益)			(67,977)
営	業	外 収 益	14,600
	受	取 利 息	584
	受	取 配 当 金	4,465
	雑	収 入	9,551
営	業	外 費 用	19,474
	支	払 利 息	10,126
	雑	支 出	9,348
(経 常 利 益)			(63,103)
特 別 損 失			11,038
	災 害 に よ る 損 失		2,136
	の れ ん 償 却 額		8,901
(税金等調整前当期純利益)			(52,064)
法人税、住民税及び事業税			19,683
法人税等調整額			△4,160
(当 期 純 利 益)			(36,542)
非支配株主に帰属する当期純利益			2,941
親会社株主に帰属する当期純利益			33,601

計算書類

貸借対照表 (2019年3月31日現在)

(単位：百万円)

(単位：百万円)

資産の部				
固 定 資 産				1,170,498
有 形 固 定 資 産				420,899
製 造 設 備				84,151
供 給 設 備				265,144
業 務 設 備				54,316
附 帯 事 業 設 備				3,220
建 設 仮 勘 定				14,066
無 形 固 定 資 産				19,492
特 許 権				3
借 地 権				2,994
そ の 他 無 形 固 定 資 産				16,493
投 資 そ の 他 の 資 産				730,106
投 資 有 価 証 券				73,538
関 係 会 社 投 資				439,539
関 係 会 社 長 期 貸 付 金				177,685
出 資 金				21
長 期 前 払 費 用				6,161
前 払 年 金 費 用				28,483
そ の 他 投 資 金				4,927
貸 倒 引 当 金				△251
流 動 資 産				368,228
現 金 及 び 預 金				108,588
受 取 手 形 金				792
売 掛 金				114,003
関 係 会 社 売 掛 金				13,644
未 収 入 金				18,263
製 品				71
原 料				59,198
貯 蔵 品				13,077
関 係 会 社 短 期 債 権				35,494
そ の 他 流 動 資 産				6,556
貸 倒 引 当 金				△1,462
資 産 合 計				1,538,726

負債の部				
固 定 負 債				439,968
社 長 期 借 入 金				144,989
関 係 会 社 長 期 債 権				252,445
繰 延 税 金 負 債				788
退 職 給 付 引 当 金				2,218
ガ ス ホ ル ダ ー 修 繕 引 当 金				3,532
保 安 対 策 引 当 金				1,173
器 具 保 証 引 当 金				11,207
そ の 他 固 定 負 債				12,454
流 動 負 債				11,158
1年以内の期限到来の固定負債				333,744
買 掛 金				43,614
短 期 借 入 金				36,886
未 払 金				5,000
未 払 法 人 税 用 等 金				15,422
前 払 費 用				35,714
預 受 金				11,107
関 係 会 社 短 期 借 入 金				7,107
関 係 会 社 短 期 債 権				1,687
そ の 他 流 動 負 債				98,962
負 債 合 計				27,191
				51,050
				773,713
純資産の部				
株 主 資 本				730,112
資 本 金				132,166
資 本 剰 余 金				19,494
そ の 他 資 本 剰 余 金				19,482
利 益 剰 余 金				11
利 益 準 備 金				580,196
そ の 他 利 益 剰 余 金				33,041
特 定 資 産 買 換 等 圧 縮 積 立 金				241
海 外 投 資 等 損 失 準 備 金				16,563
原 価 変 動 調 整 積 立 金				89,000
別 途 積 立 金				62,000
繰 越 利 益 剰 余 金				379,349
自 己 株 式				△1,744
自 己 株 式				△1,744
評 価 ・ 換 算 差 額 等				34,900
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金				37,760
そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金				37,760
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益				△2,860
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益				△2,860
純 資 産 合 計				765,013
負 債 純 資 産 合 計				1,538,726

■損益計算書 (2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

(単位：百万円)

費用	
売上原価	413,396
期首たな卸高	67
当期製品製造原価	424,213
当期製品自家使用高	10,812
期末たな卸高	71
(売上総利益)	(265,773)
供給販売費	209,233
一般管理費	49,332
(事業利益)	(7,208)
営業雑費用	102,916
受注工事費用	22,085
その他営業雑費用	80,830
附帯事業費用	301,712
(営業利益)	(27,946)
営業外費用	9,185
支払利息	4,024
社債利息	2,675
雑支出	2,485
(経常利益)	(40,553)
特別損失	13,008
災害による損失	2,015
関係会社株式評価損	10,993
(税引前当期純利益)	(34,545)
法人税等	7,100
法人税等調整額	2,305
当期純利益	25,139
合計	1,133,330

収益	
ガス事業売上高	679,170
ガス売上	659,213
託送供給収益	18,869
事業者間精算収益	1,087
営業雑収益	120,965
受注工事収益	22,668
その他営業雑収益	98,297
附帯事業収益	304,401
営業外収益	21,792
受取利息	1,565
有価証券利息	13
受取配当金	2,098
関係会社受取配当金	11,098
雑収入	7,016
特別利益	6,999
投資損失引当金戻入額	6,999
合計	1,133,330

独立監査人の監査報告書

2019年5月15日

大阪瓦斯株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 後 藤 研 了 ㊞
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 辻 井 健 太 ㊞
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 重 田 象 一 郎 ㊞
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、大阪瓦斯株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大阪瓦斯株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

独立監査人の監査報告書

2019年5月15日

大阪瓦斯株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 後 藤 研 了 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 辻 井 健 太 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 重 田 象 一 郎 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、大阪瓦斯株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第201期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、2018年4月1日から2019年3月31日までの第201期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図りながら、以下の方法で監査を実施いたしました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席するほか、随時、取締役及び使用人等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通を図り、必要に応じて子会社に赴き業務及び財産の状況を調査いたしました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを調査するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（金融庁・企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びこれらの附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

- (1) 事業報告等の監査結果
 - ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
 - ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
 - ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。なお、事業報告記載のお客さま情報漏洩に関し、当社グループの情報管理強化の取り組みを引き続き注視してまいります。
- (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果
会計監査人有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。
- (3) 連結計算書類の監査結果
会計監査人有限責任あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2019年5月23日

大阪瓦斯株式会社 監査役会

監査役（常 勤）川 岸 隆 彦 ㊟
 監査役（常 勤）入 江 昭 彦 ㊟
 監査役（社外監査役）木 村 陽 子 ㊟
 監査役（社外監査役）八 田 英 二 ㊟
 監査役（社外監査役）佐々木 茂 美 ㊟

株式伝言板

1 | 単元未満株式の買取請求・買増請求のご案内

証券取引所での株式の売買単位は単元株式数とされており、単元未満株式（100株未満の株式）は証券取引所で売買することができませんので、単元未満株式の買取請求制度・買増請求制度をご利用ください（手数料無料）。

買取請求制度とは

株主さまが単元未満株式を、当社に対して時価で売り渡す制度です。

買増請求制度とは

証券取引所での売却が可能となるように、株主さまが単元未満株式を一単元の株式にするために必要な株式を、当社から株主さまに時価で売り渡す制度です。

- (注) 1. 単元未満株式の買取請求・買増請求は、特別口座（株券電子化までに株券を証券会社等に預け入れていない株主さまの権利を保護するため、当社が三井住友信託銀行株式会社に開設した口座）の株式についても、証券会社等の口座に移し替えることなく行うことができます。
2. 当社は、単元未満株式の買取請求・買増請求に係る手数料を無料としておりますが、証券会社等の口座管理機関が手数料を定めている場合があります。

2 | 配当金の受取方法のご案内

配当金領収証により現金で受け取る以外に、次の受取方法をご指定いただけます。いずれも、安全、確実、迅速な受取方法であり、これらの方法をお勧めします。

① 銀行預金口座への振込

② ゆうちょ銀行の貯金口座への振込

③ 「登録配当金受領口座方式」での受け取り

（株主さまが保有する全ての銘柄の配当金を、株主さまが指定する一つの預金口座で受け取る方法）

④ 「株式数比例配分方式」での受け取り

（株主さまの株式を管理する証券会社等の口座管理機関ごとに、株式数に応じて配当金を受け取る方法）

- (注) 1. ③の方法につきましては、ゆうちょ銀行の貯金口座はご指定いただけません。
2. （他の銘柄を含めて）特別口座の株式を保有されている場合には、④の方法はご指定いただけません。
3. NISA口座の株式の配当金等を非課税にするためには、④の方法をご指定いただく必要があります。
4. 配当金領収証の払渡期間が経過していても、支払開始の日から10年以内であれば、三井住友信託銀行株式会社において配当金をお受け取りいただけます。

3 | 「マイナンバー」お届出のお願い

市区町村から株主さまに通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手續^(※)で必要となります。
お届出がお済みでない株主さまは、お取引の証券会社等の口座管理機関へお届出ください。

(※) 法令に基づき、当社が作成する支払調書（配当金や単元未満株式の買取請求等に関する支払調書）に株主さまのマイナンバーを記載し、税務署へ提出する必要があります。

・ 1、2の手續の詳細の
お問い合わせ先

・ 3のマイナンバーの
お届出先・お届出用紙の
ご請求等のお問い合わせ先

証券会社等の口座の株式：お取引の証券会社等の口座管理機関

特別口座の株式：三井住友信託銀行株式会社

証券代行部 ( 0120-782-031)

(受付時間：土・日・祝祭日を除く午前9時～午後5時)

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日

定時株主総会開催月 6月

株主名簿管理人および特別口座管理機関

三井住友信託銀行株式会社

(同連絡先) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  0120-782-031

(受付時間：土・日・祝祭日を除く午前9時～午後5時)

公告の方法

電子公告

(公告掲載アドレス <http://www.osakagas.co.jp/index.html>)

ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。



大阪ガスグループは、Daigasグループへ。

大阪ガス株式会社

〒541-0046

大阪市中央区平野町四丁目1番2号

TEL 06-6202-2955

この印刷物は、見やすいユニバーサルデザインフォントを採用し、
環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。